

## 自動測定システムによるアラスカ凍土コアサンプルの各種微量ガス交換量測定 Automatic measurement of gas emission/uptake of Alaskan permafrost soils

米村 正一郎<sup>1</sup>; 内田 昌男<sup>2</sup>; 近藤 美由紀<sup>2\*</sup>  
YONEMURA, Seiichiro<sup>1</sup>; UCHIDA, Masao<sup>2</sup>; KONDO, Miyuki<sup>2\*</sup>

<sup>1</sup> 農業環境技術研究所, <sup>2</sup> 環境研究所  
<sup>1</sup>NIAES, <sup>2</sup>NIES

温暖化にともない凍土からの急激な温室効果ガスの発生が懸念されている。本研究ではアラスカ凍土を採取して、室内実験により採取された凍土コアからのガス発生量に関する実験の方法論を構築したのでこれについて報告する。CO<sub>2</sub>は負の温度でも発生が見られた。CO, H<sub>2</sub>についても発生がみられた。NO, N<sub>2</sub>Oについては窒素含量の多いサンプルほど多くの発生が見られる傾向にあった。

キーワード: 凍土, アラスカ, 二酸化炭素, 窒素酸化物, 室内実験  
Keywords: permafrost soil, Alaska, CO<sub>2</sub>, NO, laboratory experiment